

# CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月  
発行日：毎月15日・月末  
PDFによる発行

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 24 No.11 2022年6月15日

## 製品・サービス動向-国内

### ■Bose：小規模スペース向けオールインワン USB 会議デバイス「Bose Videobar VB-S」発表、デバイスのリモート管理にも対応

(6月7日)

Bose International 社

([https://www.bose.co.jp/ja\\_jp/index.html](https://www.bose.co.jp/ja_jp/index.html)) (日本法人：ボーズ合同会社、東京都港区) は、小規模スペース向けのオールインワン USB 会議デバイス「Bose Videobar VB-S」を発表した。



#### Bose Videobar VB-S (Bose International)

Bose Videobar VB-S は、カメラ、マイク、スピーカーを内蔵しており、小型のミーティングブースやハドルームなど最大 3x3m程度の空間で上質なオーディオと映像を実現する。本体はコンパクトで使いやすく、会議の前にすばやくセットアップが可能となっている。

4つのビームステアリングマイクが室内の音を常に検出して收音すると同時に、收音除外ゾーンを設定して不要なノイズを排除することも可能。また、「Auto-EQ」により参加者全員に最適化されたサウンドを実現。

カメラについては、4K対応ウルトラHDカメラが広い視野角を提供し、リモート参加者のコミュニケー

ションをクリアな映像でサポートする。



#### 使用イメージ (Bose International)

会議に便利な機能として、「オートフレーミングモード」や「フォロミーモード」を搭載している。オートフレーミングモードは、グループの会議に最適な機能。部屋にいる参加者全員を映すことができ、会議の内容なホワイトボード、フリップチャート、その他の室内の状況をリモート側からクリアに把握することができる。また、フォロミーモードは、プレゼンターが一人の場合便利な機能で、フレームが自動でプレゼンターを追尾するもの。トレーニングセッションやグループディスカッションを進行する講師や教師などに最適としている。

Bose Videobar VB-S は、リモート管理にも対応している。初期設定が可能な「Bose Work Configuration ソフトウェア」、デバイスのステータスなどを確認・管理できる「Bose Work Management」、音量の調整、ミュートの切り替えなど、スマートフォンから設定をリアルタイムに変更できる「Bose Work モバイルアプリ」などを用意している。1台でもグローバルオフィスに何千台でも簡単な設置でどこからでも管理できるという。

## ■ エイネット：Web 会議システム「LiteFreshVoice」に動画テキスト検索機能を搭載

(PRTIMES：6月1日)

エイネット株式会社 (<https://www.anets.co.jp/>) (東京都千代田区) は、マルチデバイス対応の Web 会議システム「LiteFreshVoice」(ライトフレッシュボイス) に、動画テキスト機能を搭載した新バージョンの提供を開始する。

LiteFreshVoice (<https://www.freshvoice.net/>) は、任意の会議室名を付けた URL を設定し、相手にそれを伝えるだけで、テレビ会議を行うことが可能になる、超簡単操作の本格的 Web 会議システム。参加者は URL をクリックするだけで、スマートフォン、タブレット、PC など使用するデバイスを問わず、1対1通話や複数拠点での Web 会議に参加することができる。WebRTC 技術による PtoP 方式と、専用のサーバーを利用する SFU 方式を併用している。

今回発表した動画テキスト機能。エイネットによると、多くの Web 会議システムでは会議の音声テキスト化は、リアルタイムでの字幕の表示に限られてきたという。それに対して、LiteFreshVoice ではクラウド上の録画データからテキスト変換を音声・テキスト変換テクノロジー「Google Cloud Speech-to-text」を活用することで実現。会議の様相を録画したデータの音声から自動的に文字起こしを行い、生成されたテキストデータに対しては会議に参加しているどの端末からでも、参照、文字列検索を行うことが可能になった。

これにより、録画データから議事録を作成したり、会議中の特定のトピックの検索、日付からの会議内容の確認などが自由に行えるようになった。

エイネットの FreshVoice は、災害対応を初刊する官公庁や医療系の研究機関など、信頼性を重要視するユーザより高い支持を受け、オンプレミスタイプのテレビ会議システムでは、長くトップの販売実績を誇る。

同社では、国際標準のテレビ会議/Web 会議システム開発および販売から、セキュアな業務ネットワークの構築や運用まで企業経営に貢献する ICT 活用をトータルでサポートしている。

## ■ ブイキューブ：リアルタイムな情報共有を支援する防災 DX ソリューション「V-CUBE コミュニケーションマップ」を発表

(6月8日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、リアルタイムな情報共有を支援する防災 DX ソリューション「V-CUBE コミュニケーションマップ」を発表した。



<機能イメージ>

### V-CUBE コミュニケーションマップ利用イメージ (ブイキューブ)

V-CUBE コミュニケーションマップは、「V-CUBE Board」や「V-CUBE コラボレーション」といったプラットフォーム上で機能する、リアルタイムコミュニケーションを支援するソフトウェア。自治体を中心に、消防本部などでの災害対応や火災等への対応を求められるシーンで活用できるという。

従来の地図を使った災害対策システムとブイキュー

ブのオンラインコミュニケーションの強みを融合させており、動画やオンライン通話の従来のコミュニケーション方法に加え、地図を使った視覚的機能を加えたところに特徴がある。複数拠点で同時に起きている事案とそれらに紐付くコミュニケーションを、一つの地図上にまとめ、有事の際などに強固なリアルタイムのコミュニケーションを支援する。

これまでは紙の地図の上に透明フィルムを貼って書き込みや付箋の貼り付けをして事案対応されていたものが、デジタル地図上で効率的に行えるようになる。さらに地図上から現地にいる担当者呼び出すことができるなど、本部と現場のスムーズなコミュニケーションで有事の際の適切な対応を支援する。

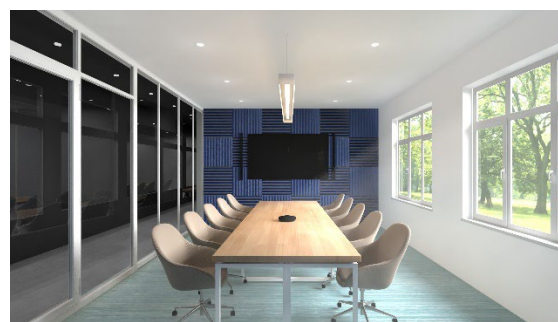
V-CUBE コミュニケーションマップは、V-CUBE Board や V-CUBE コラボレーションと連携して使用することで本部と現場間のさらに強固な連携を実現する。V-CUBE Board 上で使用することで、その他の情報とならべて複数名で同時に確認できるため、より俯瞰した視点で効果的に活用できる。また、V-CUBE コラボレーションと連携することで、地図上で表示されている拠点や現場の担当者を直接呼び出し、リアルタイムに必要なコミュニケーションが取れるようになっている。

## ビジネス動向-国内

### ■ヤマハ：遠隔会議システム「ADECIA テーブルトップソリューション」が「Microsoft Teams」の認定を取得

(6月14日)

ヤマハ株式会社（<https://sound-solution.yamaha.com/>）（静岡県浜松市）は、同社の遠隔会議システム「ADECIA テーブルトップソリューション」がマイクロソフト社の提供するコラボレーションプラットフォーム「Microsoft Teams」の認定を取得したと発表。



#### 遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション

##### 「ADECIA テーブルトップソリューション」(ヤマハ)

ADECIA テーブルトップソリューションは、大学の教室やオフィスの中・大規模会議室などに向けて、音の入口から出口までを運用・管理する機器と機能をトータルで提供する遠隔会議システム。テーブルトップアレイマイクロフォン「RM-TT」、遠隔会議用プロセッサー「RM-CR」、Dante/PoE 対応ラインアレイスピーカー「VXL シリーズ P モデル」に加え、PoE スイッチの4製品でシステムを構成している。

テーブルトップアレイマイクロフォン RM-TT は、標準構成で14台までマイクロフォンを拡張でき、大人数が参加する遠隔会議に対応する。また、ケーブル接続形態はスター型トポロジーを採用し、マイクロフォンと PoE スイッチを LAN ケーブルで直接結線することで、広い会議室でも、ケーブル同士が干渉しない、かつフレキシブルな配線を行えるようになっている。さらに、マイクロフォン本体に DSP を搭載しており、複数台を使用する場合にも、個々で収録した音声に最適な補正を掛けることで、さまざまな場面で快適な音声を提供するとしている。

ヤマハによると、近年、会議室向けのサウンドソリューションでは、柔軟性があり、使いやすく、対面の参加者と遠隔先の参加者の双方に優れた音声を提供することが求められており、「Microsoft Teams」などのコミュニケーションプラットフォームとのスムーズな連携も重要視されているという。

## 導入利用動向-国内

### ■Bose International：立命館大学がオールインワン USB 会議デバイス「Bose Videobar VB1」を採用

(3月8日)

Bose International 社 ([https://www.bose.co.jp/ja\\_jp/index.html](https://www.bose.co.jp/ja_jp/index.html)) (日本法人：ボーズ合同会社、東京都港区) は、立命館大学 (<http://www.ritsumeai.ac.jp/>) (京都市中京区) が、オールインワン USB 会議デバイス「Bose Videobar VB1」を採用したと発表。



同校に導入された Bose Videobar VB1  
(Bose International)

立命館大学は、4つのキャンパスにわたって、16学部、21研究科、35,000人の学生を擁する日本屈指のグローバル総合大学。新しい大阪いばらきキャンパスでは、柔軟かつ安全な学習環境実現への取り組みとして、主に企業の会議室で採用されているリモート会議用テクノロジーを活用して柔軟で先進的な学習環境を創出している。

この度、中規模の教室に最適な Bose Videobar VB1 を導入することで、教室内外を問わずさまざまな場所から講義に参加する学生の要望に応える。

同大学によると、Bose Videobar VB1 の利点としてまず、高いマイクピックアップ性能により、教室内でソーシャルディスタンスを取っている学生の声もしっかり收音でき、クリアで高品質な音声をリモートで参

加する学生に提供できる点を挙げる。加えて、サウンドをマスクする収音除外ゾーン機能もとても気に入ったという。また、再生音についても、Bose の定評ある音質とクリアなサウンドにより、学生の声を容易に聞き取ることができるという。Bose Videobar VB1 が同校のハイブリットな学習環境とシームレスなコラボレーションをサポートしている。

※立命館大学 導入事例：

[https://pro.bose.com/ja\\_jp/why\\_bose/case\\_studies/ritsumeikan-university.html](https://pro.bose.com/ja_jp/why_bose/case_studies/ritsumeikan-university.html)

### ■ベルフェイス：朝日生命のコールセンターにて「bellFace」を試験導入

(PRTIMES：6月1日)

ベルフェイス株式会社 (<https://corp.bell-face.com/>) (東京都渋谷区) は、朝日生命保険相互会社 (<https://www.asahi-life.co.jp/>) (東京都新宿区) がコールセンターでのお客様対応において「bellFace」の新機能を活用したオンラインサポートを開始すると、発表した。

導入前の課題としては、まず、ホームページ上の操作方法や手続き書類の記載方法などに関する問い合わせの際に、電話での口頭説明だけではお客様にご理解いただけないケースがあった。さらに、申込関連の書類や保険金請求に関する書類の不備が多く、訂正のための返送などそのための対応工数が膨大になっていた。

そこで、朝日生命では複数の会社の機能を比較。4桁の番号を入力することで接続できる「接続の容易さ」と、スマートフォン等のカメラ機能を利用した「写真撮影機能」が新たに提供されるとの説明をベルフェイス側から受け、従来以上にお客様に寄り添った対応が可能になると判断し bellFace を試験導入することにした。

試験導入では、顧客側の PC 画面を共有する機能や、顧客のスマホのブラウザページ画面をオペレーターに

共有できる「スマホ画面サポート機能」を活用するほか、カメラ機能を用い、電話をつなぎながら本人確認や必要画面の確認ができる「写真撮影機能」を活用し、お客様の手元にある書類の内容を即座に確認するといったところで bellFace の利用を想定している。

bellFace は、アプリインストールや URL 発行などの事前準備が不要で、電話と PC・スマートフォンを使って、簡単に資料や画面の共有ができるオンライン営業システム。ネットが苦手なお客様も快適に利用できるため、特にリテール営業での利用に適しているという。

商談の映像や会話が記録され、それをチームで共有したり、分析ができることで、営業組織のスキルの向上やマネジメントの効率化を図れることが最大の特長。契約後は専任のカスタマーサポートが利用定着まで支援する。

加えて、セキュリティ国際規格 ISO27001 (ISMS) 認証を取得し、厳格なセキュリティ基準に則って運用をおこなっているため、大手企業や行政、金融機関等の導入実績も多数ある、安全なシステムという。

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### ■miro next Japan

明日のチームに、新しい働き方を。

日時：6月16日(木)13:00~15:00

会場：オンライン、COREDO 室町テラス 3 階

主催：ミロ・ジャパン合同会社

詳細・申込：<https://mironext.eventcloudmix.com/>

#### ■mmhmm で新しい Web 会議のスタイルを！リモートワークの最前線セミナー

日時：6月24日(金) 11:00~12:00

会場：Web 会議システム「letaria」上で開催

共催：ドコモ・システムズ/mmhmm

詳細・申込：

<https://kyodonewsprwire.jp/release/202206092308>

#### ■ブイキューブセミナー情報 (6月~7月)

「ウェビナーを日々の営業ツールに！ホットリード獲得に繋がるウェビナー活用方法」「実演！ライブ配信・ビデオ通話アプリ開発」「メタバース×Web 講演会」「AI で解決！製薬業界のマーケティング担当者・DX 部門必見セミナー」「ぷらっとオフィス見学 Days！ブイキューブの働き方をお見せします」など

会場：オンライン/オンデマンド

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

#### ■Webex Meetings 関連ウェビナー (6月~7月)

「Webex Meetings：人事部が選ぶ Webex 機能」「Webex Webinars：基本」「代表電話がどこでも取れて生産性アップ！体感型 Webex Calling ウェビナー」「Webex Meetings：共有の活用方法」など（録画も視聴できます）

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：[https://www.cisco.com/c/m/ja\\_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html](https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html)

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<https://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

## 業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

#### ■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

#### ■Twitter（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト (dtc-forum)

<https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は  
下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

**CNAレポート・ジャパン 2022年6月15日号おわり**

ホームページ: <https://cnar.jp> お問い合わせ: [cnar@cnar.jp](mailto:cnar@cnar.jp)